

米倉山施設・報道公開実施、産業新聞に記事掲載

平成 29年 12月 20日

12/19 米倉山実証機報道公開

コア技術紹介



質疑応答の様子



報道陣【テレビ2社、新聞7社】

山梨県（企業局）と
鉄道総合技術研究所、

超電導フライホイール蓄電

2年後めど本格実用

古電の線材性能向上寄与

超電導フライホイール
の蓄電状況を説明



古河電気工業、ミシブ
口は19日、共同で行っ
てきた超電導フライホ
イール蓄電システムに
ついて現地公開し、実
用化に向けた技術開発
がほぼ達成したと発表

した。浅川晴俊・山梨
県企業局電気課課長
は、2年後をめどに、
本格的に実用化してい
く見通しを明らかにし
た。また、中核技術と
なる高温超電導線材開
発を担当する古河電工
の福永隆男・研究開発
本部情報通信・エネル
ギー研究所所長は、高
性能化が進み15トンの大
荷重を支持できる磁気
軸受開発が技術面で可
能との認識を示すと
もに、今後は荷重規模
だけでなく、実用化に
向け量産段階を見据え
て歩留まりアップなど

品質の安定化、低コス
ト化などにも取り組む
としている。
米倉山で行ってきた
試験は、新エネルギー
・産業技術総合開発機
構（NEDO）による
「安全・低コスト大規
模蓄電システム技術開
発」の助成事業として
スタート。この事業は、
鉄道総研や古河電工な
どとともに共同で製作
した超電導フライホイ
ール蓄電システムの実
証機を活用し、事業期
間が終了後も開発を継
続し、さまざまな改良
を図ってきた。

日刊産業新聞 12/20号、一面に掲載